

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉に貢献できるように常に行政や居宅との連携を密にとっている	「お年寄りを敬う」という理念があり居間に大きく掲示されている。一見簡単そうに見えるが奥は深く、職員もそれを理解し、利用者の誇りを大切にすることを念頭に言葉がけや支援に当たっている。理念に沿わないような言動が職員に見られた時には管理者から直接注意を促したり、月1回の職員会議でも振り返り、理念に沿った支援であるのかどうか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動に積極的に参加する様に心掛けている 自治会に加入し一件の家として地域とのかかわりを大切にしている	区費を支払い地域の側溝掃除などに参加している。年に1~2回、地域のボランティアの会の方が来訪し踊りや歌で利用者を楽しませている。今年も地域の秋の文化祭に利用者、職員合作の広告で作ったカゴを出品した。色を塗り、ラッカーで仕上げているので本物の竹製のように見えた。近所から豆の鞆むきなどを頼まれ、お正月には煮豆でお返しに来るといふ。秋祭りには地区の獅子舞がホームを訪れたり、利用者が村民祭りに出かけたり住民とふれあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談や見学はいつでも受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員の方や家族等の参加が多く自由に意見を交換しながら活発に行っている また日頃の生活や外出等の様子をビデオで流してみている	家族、区長、組長、民生委員、村福祉課職員が出席し偶数月に開催している。必ず全家族に声がけしているので7~8人の家族が参加している。利用者状況、活動報告など双方向的な話し合いが行われ、会議の後に主に家族向けの勉強会も開いている。今年度は職員が認知症の利用者の立場に立って交替で疑似体験をしており、その発表を一人ひとり行なった。出席者からいただいた意見や助言で良いと思うことはすぐ実行に移しホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の空き状況や現在の状態など役場や派出所に情報提供しながら危険防止なども踏まえた取り組みをしている	ホームに空床が出た場合には村役場に知らせ協力をいただくようにしている。介護保険の代行申請を家族の依頼を受けて行っている。隣村からの利用者もいることから管理者が隣村からの委託を受けて認定調査を行うこともある。隣市や村内からの利用者については調査員の来訪時に本人の状態を家族に代わり伝えている。隣市を中心とした地域ケア連絡会にも職員が参加し情報を集めたり、研修を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊者等入所されている場合は玄関に徘徊探知機を設置し危険防止に努めている 夜間一人対応時は玄関に施錠をしている	隣市にある本社主導の年間6回ある研修の中には必ず身体拘束も含まれ、職員は受講している。拘束や利用者の行動を制限をしないケアについて職員は十分理解している。「無断外出マニュアル」も作成されており、外出傾向の見られる利用者については職員と一緒に外に出て気持ちを落ち着かせている。万が一の離設に備え駐在所に提供する個人情報のシートも準備している。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会ある毎に職員会議等で話し合い、虐待防止等に注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に活用できるように外部研修で学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一通り説明はしている 説明した部分を必ず書き留めて説明不足など無い様に記録に残しているその上で納得された方には署名捺印を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪された家族には声掛けして最近の様子や家族の要望を聞き支援に反映させている	利用者のつぶやきを赤い字で日誌に記し、要望や不満なども含め職員間で共有するようにしている。家族の来訪は平均週に1回ほどで、遠方の方も月1回は訪れている。家族の来訪時には利用者の状況を報告し、家族の要望を聞くようにしている。家族会が食事会を兼ねて5月に開かれ、今年度も8家族が参加している。ホームの便り「コロナ」が偶数月に発行され利用者のくらしぶりを家族に知らせており、家族との話題づくりに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議や月2回の合同での定例会議等で職員の意見や・要望を聞いている	本社の定例会議が月2回あり、管理者と正職員が交替で出席している。ホームの会議も全員参加で月1回開催されている。ホームでは毎朝の引継ぎを重要視しており30分かけてバイタル、夜間状況等の連絡ノート5冊を使い漏れないようにしている。この引継ぎでも意見や提案をすることができ管理者と各職員との意思疎通を図っている。毎年欠かさずに行われている本社の職員と一緒に1泊2日の社員旅行でリフレッシュを図るとともに風通しの良い職場づくりに全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会や講習会への参加援助や勤務時間の希望を受け入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加している 社内研修も年に6回各セクションで研修内容を決めて取り組んでいる		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会が年に6回行われてそれぞれの事業所の特徴のある研修会を行っている地域ケア連絡会の主催で年に12回研修を行っている 研修を通して交流を深め質の向上を図っている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その都度不満や要望を聞きいつでも本人の不安が軽減できるようにじっくりと時間を取って話を聞ける様に職員一人一人が心掛けて取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時を初めとしていつでも声を聴けるような雰囲気づくりに取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人、その家族により必要としている事は異なるので、よく話し合いをしケアプランを立てている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の話しかけに時間を取って傾聴しながら思いを聞けるような要望に添えるような支援に心懸けている 畑の作業等一緒に行い収穫した作物を美味しくいただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問された家族には昼食時間では利用者様と一緒に食事を召し上がっていただいている 日頃の様子や写真などを見て頂き安心して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも訪問客は歓迎している 本人は忘れていても職員が中に入って話を聞き忘れないように時々思い出話をしている	昔の学生時代の友人の来訪を受ける利用者もいる。ホームから電話をかけたいという利用者もいるが実際には会話が成り立たず時間をかけて手紙を書くことを職員も根気強く支援している。それぞれの家庭の事情によりお祭りなどの家族が集る時からずらし一時帰宅する利用者もいる。誕生日に子供が来訪し、食事や泊まりに出掛ける利用者もいる。携帯電話を持ちたいという利用者があるが、実現は難しい状況となっている。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様も苦手な相手・好きな相手がいるので席を変えて楽しく生活が出来る様に工夫をしている時々大がかりな喧嘩をする人もいるがその時には職員が中に入って仲直りできるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所された方や他の施設に行かれた方々の家族もお米がとれた 野菜が取れたと持ってきてくれている イベントなどにお誘いの声掛けをしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活出来る様に一人ひとりの思いや希望に感心を持ち日常生活の中で 普段と違う事など見逃すことが無い様に気を使っている本人の望まない事・不都合な事は即改善する様に努めている	大半の利用者は自分の思いを表出できる。日頃言葉に表わすことが出来ない利用者には言葉がけしそれに対する表情や仕草から思いを汲み取っている。比較的何か困った時にストレートな言葉になって出るという。多雪地域のため外出などができなくなる冬場の1月から3月の間に「来年の自分への手紙」を年に1回一人ひとりに書いていただき、「～になりたい」、「～にしたい」などの思いを残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族や本人に出来るだけ詳しく聞くように心懸けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握し、記録として残しながら、改善される必要の有る物について、その日のうちに話し合いの機会を設け即改善できるものはその日のうちに対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始時に本人・家族の意向を聞き作成している 利用者の一人一人の生活記録を残し 本人の小さなつぶやきなどは赤字で記入プランに反映させている 利用者の状況変化によっては随時見直しを行っている	本人・家族から意向や希望を聞き、本人の状況や利用前の情報等を参考にアセスメントしている。全職員で話し合いを持ち、目標、内容を設定し介護計画を作成している。長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月となっており、本人、家族に説明している。毎日実施状況を確認しケアプラン実施表に「○」、「×」で記入し、実施できていない支援内容については見直しをかけている。変化がなければ6ヶ月毎に見直しが行われ、状況変化によっては随時、見直しが掛けられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残しケアプランの見直しをしている		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の時の通院介助・入院時の手続き訪問介護や訪問歯科依頼等その時々ニーズに対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の駐在所には入所者の個人的な情報を提供して徘徊等の協力をお願いしている、地域の消防訓練参加し協力して頂いている、ボランティア等の交わりを楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞きながら自由に病院を決めて頂いている 協力医による往診が月に2回訪問看護は週3回あり情報の共有化と適切な対応を取ることが出来ている 協力医以外の受診希望者には家族が対応できない場合は管理者が同行している	在宅時のかかりつけ医の継続については本人や家族の自由意思に任せている。協力医による往診が月2回あることから協力医に変更する方が多い。訪問看護師も週3回来訪しており健康管理や相談にのっている。協力医以外のかかりつけ医を利用している方や専門科目の受診については家族の付き添いを基本としている。その際には家族に情報提供票を渡している。家族が都合がつかない場合には職員が対応している。歯科医による往診も可能であるが、機器が必要な治療には医院に向いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱発・怪我・便秘・等普段と違う状況には即看護師に連絡し医師へと伝達されて薬の処方・点滴等病状によって適切な処置が行われている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の協力医の先生や看護師が中心となり病院側との連携・情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取り等は状況の変化に合わせて同意書の作成をし直し家族・医師等と話し合っている	ホームとしての重度化した場合の看取り指針があり、利用開始時にホームとしてできる支援について家族に説明し「看取り介護についての同意書」が交わされている。今秋2名の方が亡くなられ、そのうちの1名の方は救急搬送され病院で亡くなられ、1名の方はホームでお見送りしている。看取りの前後には家族、医師、訪問看護師とその都度相談しながら、予測される状況について確認しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備・研修の実施をしている 担当医と連絡を密に取り看護師との連携によって急変時の時には電話にて指示を受けている		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間一人対応の通報訓練・避難訓練・消火訓練等年間2から3回程度行っている	8月31日の地区の防災の日に合わせて避難訓練を実施し、避難完了の報告を地区の組長あてにしている。利用者も参加しており避難する際に車椅子を使用する方が多くなっている。万が一の場合には地域の方から協力をいただけるようになっており、名前入りのたすきなど外部からの応援者にも利用者が識別できるようにしている。夜間を想定し、消防署の立会いで行われることもある。非常時に備え毛布などの防災用品や食料品などの備蓄もある。AEDも事務カウンターの上に常備されており訓練も定期的に行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排せつ介助には十分な配慮に心掛けまた話し方やお世話させていただくと言う気持ちで気配りをしている	理念の通り利用者を人生の大先輩として敬意日頃の暮らしの中で本人の尊厳を大切にしている。利用者一人ひとりの名前に「さん」付けでお呼びし、馴れ合いにならないようにしている。ドアを開放した際に目隠しとなるよう居室の入り口にはカーテンが設けられている。入浴や排泄の介助の際には本人の意志に沿って同性、異性かの確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をしている時等小さなつぶやきも聞き逃すことなくまた自己決定のし易い方向に導いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事を作るのではなく個人のペースで生活して頂ける様声掛けのタイミングなどに気を使ってニーズに応えられる様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方にはその日に着たい洋服は自由に選んでいただいている おかしい時にはアドバイスをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	直接調理の手伝いや後片付けが出来る方は今の所いないが小豆の皮むき等は手伝ってもらっている	一部介助や声かけの必要な利用者が若干名いるが、大半の方が自力で食事をとることができている。食材によってはキザミ食やミキサー食で対応する利用者もいる。季節に合わせてスイカ割りや流しそうめんをしたり、近くの食堂や回転寿司などへ外食に出かけることもある。利用者もそれぞれできる範囲でお手伝いしている。ホームには広い畑があり、夏野菜を中心に育てており、近所からの頂き物の果実や野菜も届いている。玄関ポーチには干し柿のすだれが下がり、冬囲い用の白菜、キャベツ、大根などが大量に置かれていた。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日1000ccを摂取できるように記録に残して確認している 糖尿病の方はCalを計算して食べて頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には洗面所にて口腔洗浄して頂いている その後はスタッフが確認している 出来ない方にはスタッフが行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導している 家ではオムツ対応だった方が尿取りパットを濡らす程度におさまっている 夜間は尿意が有る方にはpwcを設置し自力で排泄して頂いている	オムツ使用の方が若干名いるが軽度で、布パンツ使用の方も2名ほどいる。その他の方はリハビリパンツを使用し、時間でトイレ誘導もしている。自主的にトイレに行く方も若干名いる。自宅からの流れで夜間のみポータブルを使用する方もいる。利用者によっては状態に波があり、一人ひとりに合わせ介助方法を変更することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録に基づきチェックしているが薬に頼らないと排便できない方は下剤使用しているが 繊維の多い野菜など毎日調理して出せるように工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	会社の都合で入浴日を決めてしまっているが気分の乗らない人には入りたい気持ちになるように日にちをずらしたり 言葉かけに工夫をしながら入浴が気持ちが良い事を感じて頂いている	少なくとも週2回は入浴している。入浴日は決めていないので毎日入りたい方は毎日入浴できる。自立している方は2名ほどで全く歩けない方の場合には二人介助で支援している。入浴の手順が分からなくて拒否する方や体調を理由に拒否する方もいるが、曜日を変えるなど臨機に対応している。菖蒲湯、柚子湯、ゲンノショウコ風呂、ダリア湯、ヨモギ湯なども行い好評であるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	多動な行動をとられる方には時には職員目の届くところの畳の部屋で寝て頂くこともある 状態によって時々居室内の移動もしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態によって薬の説明が入らない人もいらっしゃるのでは全員とはいかないが 分かる方は自分でコントロールしながら飲んでいる(下剤に限って)		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	俳句短歌が好きな方は自分の居室内にてワープロを用いながら本を作る準備をされている 縫い物が好きな方・箱折りが好きな方 カラオケが好きな方にはそれぞれの出来る範囲で楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に自然に触れられるように外出介助をしている 花見・蓮の花見学・バラ・ダリヤ園・紅葉狩り・外食・地域との交流・お祭り・火花・等と楽しまれている 今年外出は全員一緒という事が少なかったが いろんな場所での外食は大変好評だった	夏場の天気の良い日にはホーム周辺を車椅子の方も含めて少人数に分かれ散歩している。野菜づくりを委託している地域の方の自宅へおにぎり持参で訪問することもある。季節に合わせて花見やダリアの花の見物、バラやハスの花の名所、紅葉狩りなどで外出し、帰路、食事をとることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的な金銭のお預かりはしていないが買い物などに行きたいと希望のある方には外出介助していきたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書きたいと希望のある方には 書きたいことを聞き文を書いていたが 住所はこちらで書き出している 電話は時間帯を見ながら仕事に差し支えない時間に掛けて頂くこともある 携帯を持ちたいと今注文している方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地元の方ならば誰でも知っている見慣れた高やしろが目の前にど〜んと見える 山は四季折々に色々な顔をみせてくれる 毎月季節に合った装飾を施設のホールに飾りつけをしている	鍵の手に居室が配置されておりその中心に小上がりの居間、食堂がある。壁には行事のスナップ写真や塗り絵、俳句や短歌が掲示されている。利用者が縫い物や箱折りに関わっているので玄関のカウンターには利用者職員手作りの作品が沢山飾られている。蓄熱暖房やエアコン、ファンヒーター併用で冬を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居室が設けてあるので一人が良い人は一人で本を読んだり・ぬいぐるみに話しかけたりまた気の合う方同士居室訪問して話をしたりホールで気楽に休めるような工夫もしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	子供の写真や・孫・姉妹・家族の写真を飾ったり信心をされている方は写真を飾って祈ったり 動物のぬいぐるみに布団を着せたりと心穏やかに過ごせるように配慮している	自分の思う場所に移動させることができるキャスター付きの大きなロッカーや居室上部の戸袋があるので、収納スペースが十分で整理整頓された居室が多い。居室入口には居室名と同じ花の写真が掲げられている。誕生日のお祝いの色紙が飾られている居室を見ることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな日めくりを作り今日は何日の何曜日か一目で確認できるようにし土日には家族の訪問を楽しみにしている またリハビリが楽しみな方は曜日を毎日確認している 廊下続きに歩行練習が出来る様にしている		